

私たちは
自然のなかで
生かされている

【ジャーナリスト】

野中



「ワールドシフト」とは。

哲学者で、ピアニストでもあるアービ
ン・ラズロ博士が会長を務める「ブタペ
ストクラブ」(世界賢人会議)が09年秋
に発表した「ワールドシフト宣言」を受
けての取り組みです。海外メディアを通
じて私の活動を知ったラズロ博士から依
頼を受け、著作「ワールドシフト201
2」に原稿を書かせていただきました。
この宣言では、私たちが直面している
気候変動や資源の枯渇などの世界的な危

ともよ



のなかともよさん

1954年東京生まれ。上智大卒。

番組キャスターとして活動後、

アサヒビルや三井不動産などの企業の取締役や

経営顧問を歴任。05〜07年3月まで三洋電機会長。

現在はNPO法人「ガイア・イニシアティブ」代表。

一般社団法人「ワールドシフトネットワークジャパン」の理事。



機を、再考のチャンスととらえ、「地球上のすべての生き物たちのために協力しよう」と訴えています。

なぜ共感したのですか。

チェンジは大きなエネルギーが要るけれど、シフトならできる。「一人ひとりの力は小さいけれど、そのシフトが重なり、つながることでは世界は変えられないよ」というラズロ博士の言葉が胸に響きました。

戦後の日本をどう見ますか。

高校生のとき、欧米の知識人らで結成した「ローマクラブ」の「成長の限界」(日本版は72年に出版)に出会いました。このレポートはラズロ博士が編集長でした。20世紀、近代化とともに、人口増加や資源枯渇、食料不足、環境汚染などの問題が深刻化しましたが、地球に限りはない、宇宙そのものが永遠であると信じていた時代ですね。

日本でも公害問題が発生し、環境運動がさかんになりましたが、水や空気は汚染され、環境悪化が進みました。ジャー



自然のなかで人々が調和して共存するために、社会の流れを新しい方向にシフトしようと、ハンガリー出身の科学者、アービン・ラズロ博士らが「ワールドシフト宣言」を提唱しています。日本で「シフトの輪を広げよう」と活動しているのが、ジャーナリストの野中ともよさんです。

「価値の軸をお金から、いのちの目盛りに移す。東日本大震災後の日本はとりわけ、生産資本から森林資本にシフトすることが必要です」と野中さんは話します。【聞き手 明珍美紀 写真 橋本政明】

ナリストになって社会を見たとき、人間の技術力をもってしないと環境問題の答えは出ないと思うようになりました。

三洋電機の会長として会社の経営再建にも取り組みました。

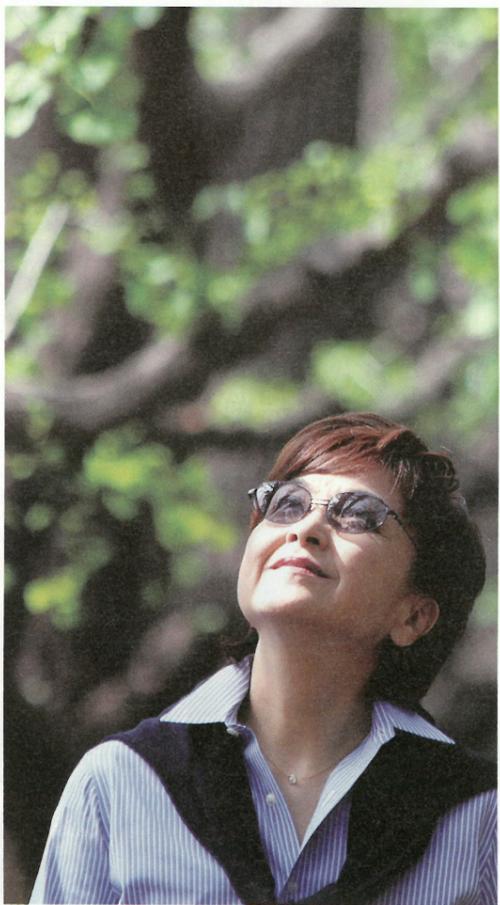
社外取締役のときに、新潟県で中越沖地震(04年)が起き、半導体工場が被災し、経営が大打撃を受けた後、会長就任

の話がありました。3年間の社外取締役時代から気づいていたのは、テクノロジーの最先端がいつばいあること。けれども、製品ごとに縦割りで、横の連携がなかったのです。

変えるためには、どんなビジョンで何のために仕事をするのかを明確にしようと思い、「Think G A I A (シンク・ガイア)」というビジ

ョンを掲げました。私たちが直面する環境問題の解決に役立ち、地球が喜んでくれるような商品をつくらうというわけですね。その成果の一つが「エネルギー」という充電電池。太陽光で充電でき、いまは1500回繰り返し使えます。

売上げを1円でも上げ、1円でもコストを削る。できるだけたくさんつくって売ってマーケットシェアを伸ばす。これが20世紀の日本でした。でも、「未来の地球が喜ぶような商品をつくりましょう」というと従業員も張り切る。ある技術者の男性は「うちの子どもが『お父さんは地球のためにいい商品を開発した』と作文に書いてくれた」と涙を流して報告してくれました。残念ながらそうした従業員



員のやる気や誇り、研究技術者の力はすくなくには数字に出ないので金融業界の人には理解できなかったでしょう。就任2年後の07年3月に会長職を辞任しました。

その後、どんな活動を。 「ガイア・イニシアティブ」というNPOを4年前に設立しました。日本の高度な環境技術を国内外に広げる目的で、若者たちによるユースチームは、東日本大震災の被災地でボランティア活動もしています。

今回の震災で原発の安全神話が崩れました。これから復興計画が具体的になるのでしょうか、2050年、21世紀の半ばには「日本はフクシマ(原発事故)が起きた島だから、こういう島づくりをしよう」という言葉が、日本の人にとってすこいね」と言われるような国づくりにしなければなら

ない。そのためにはこれまでの生産資本

の話を聞きました。3年間の社外取締役時代から気づいていたのは、テクノロジーの最先端がいつばいあること。けれども、製品ごとに縦割りで、横の連携がなかったのです。

いのちの多様性、水の豊かさ、空気のきれいさをつくりだしている森林と向き合う。森をよみがえらせるのは、国産材の活用というレベルを超えて、エネルギー、食料、教育、医療の未来を拓くことに通じるのです。

価値の軸を
お金から、
いのちの目盛りに
移そう



【ブダペストクラブ】
(世界賢人会議)

「人類の叡智を集めてよりよい未来をつくらう」とアービン・ラズロ博士が93年に創設した非営利の国際組織。科学者や芸術家、文化人などが集まり、主なメンバーにはバングラデシュのノーベル平和賞受賞者で貧困層向けの融資機関「グラミン銀行」の創始者、ムハマド・ユヌス氏やソ連元大統領、ミハイル・ゴルバチョフ氏らがいる。